《第102回》令和三年十二月の作品

〈十二月十日（金）　於・文京シビックセンター５Ｄ〉

直売のりんご頬張る芦田宿　（孝昭）

仲見世の大絵馬飾師走かな　（隆治）

新しき墓碑の三陸冬の海　（芙紗）

まっ白な暦に夢を師走かな　（正雄）

砂風呂を出れば浜風身に凍みぬ　（貴美）

大仏の膝を飛び翔つ寒雀　（一江）

吉右衛門逝く

年の瀬やもはや幻勧進帳　（正佳）

ちらほらと山茶花の紅散歩径　（平六）

深夜二時驚天動地冬ノ雷　（奉男）

せせらぎの音のみひびく枯木宿　（清助）

からからとからかふやうな寒鴉　（前歩）